

テーマ：『作業療法の現状と未来について』

報告者：ワークショップ出席者

司 会：千葉県立保健医療大学 岡村 太郎

ある日、「初学専心」という作業療法の勉強会から文章がまわってきました。そこには、新人の集まりであり、作業療法のあり方について論じ合っていることが書かれていました。若い彼らの作業療法への熱意や危機感が溢れ出てきそうな文章でした。

作業療法の定義に「身体又は精神に障害のある者、またはそれが予測される者に対し、その主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復、維持および開発を促す作業活動を用いて治療、指導および援助を行うことをいう」とあります。

作業療法士は作業活動をどうとらえ、どのように治療、指導・援助に生かすのか？また、生かす事ができるのか？対象者のお役にたてるのか？それは効果があるのか？作業療法は必要なのか？幾人かの作業療法士は臨床・現場で悩みながら作業療法を行っています。

この文章を読まれている方もそのひとりかも知れません。

今回、学会前日よりブロック長はじめ「初学専心」のメンバーや地域から色々な考えをお持ちの作業療法士に集まっていただき、作業療法の未来について語っていただきます。

KJ法を使って、まとめ、日本の「作業療法の未来」の地図、或いは空に広がる星座を作っていただきたいと考えました。

混沌としているわけのわからない「事」と「事」を結ぶとそこから物語が生まれます。意味づけられた物語の事実から新しい作業療法が生まれます。

学会当日お昼に、前日に語られ、まとめられた「作業療法の現在と未来」について、皆様の前で短い時間ではありますが語っていただきます。

作業療法の未来は「ことば」として生まれ、共有することが大切です。そこから新しい意味や価値を伴う「作業活動」が動き始めることを祈っています。